

第99回国際キワニス・ASPAC 合同年次総会（東京・千葉大会）



ホスト・コミティー委員長 北里光司郎
事務総長 吉田浩二

第99回国際キワニス・ASPAC 合同年次総会は、世界各地から約2,800人の参加者を得て7月17日より19日までの3日間千葉・幕張において開催され、大成功裏に終了した。多くの参加者の方々から、「空港に着いた瞬間からキワニス精神での暖かい出迎えに安心した。」「宮様のご臨席とお言葉に感動した。」「日本の文化、武道の精神に心を打たれた。」等の感想の言葉が聞かれた。今回の成功は、日本地区のホスト・コミティーの委員の方々を始め、大会に参加しご協力をいただいた方々、国際キワニス関係者、更に、千葉県、千葉市、幕張メッセ、ちば国際コンベンションビューローまた宮内庁の方々等、広く関係組織の皆様のサポートによるものと感謝しています。

東京・千葉大会が成功した6つの要因

国際年次総会とASPAC大会が合同で開催されたのも初めて試みであり、今後4年毎に国際年次総会と地域の大会とが合同で行われる場合のモデルとなったと言われている。今年次総会の成功の要因を特記すると、次の通り。

(1) 秋篠宮同妃両殿下のご臨席とお言葉をいただいたこと

国際キワニス年次総会で史上初めて王室、皇室からご臨席とお言葉をいただいたこと。秋篠宮同妃両殿下の開会式へのご臨席は世界各地からの参加者に大変大きな感動を与えた。

その余韻が大会期間中続いたと考えられる。

(2) 若人の活躍が顕著な大会であったこと



地元の幕張総合高校は、開会式、閉会式、日本文化フェアーなどにおいて、学校を上げて様々な協力をいただき、大会を大いに盛り上げてくれた。身延山高校もブースでの発表、ボランティア、神田外語大学の語学ボランティアなど、若人の力に支えられたと言っても良い。

(3) 短期間の間に綿密な計画を行い実施したこと

準備スタートから開催まで、僅か1年4か月しかないという異例の準備期間であったが、その間日本地区としては、ホスト・

コミティーを13回開催して、大会内容や受け入れ体制についての準備検討を綿密に進めた。その成果が上がって、空港到着案内から、登録、情報サービス、各行事の運営迄、大変スムーズに進められた。特に、空港での出迎え体制は長時間のフライトで到着する参加者に大きな安心感と親近感を与えた。また、随所に日本の文化、武道を参加者に知ってもらえるように配慮し、日本での大会の特色を大きく印象づけた。

(4) 千葉県、千葉市、幕張メッセ、ちばコンベンションビューローが一体となってサポートしてくれたこと





千葉県、千葉市のグループが一体となって支援してくれたこと、特に千葉市は、キワニアンでもある熊谷市長が終始一貫して千葉幕張におけるキワニスの世界大会の開催の重要性について強調してくれただけでなく、開会前に千葉市の浮世絵美術館の特別展示をキワニスのために開催し、そこへキワニス幹部を招いて歓迎晩餐会を開催してくれた。このように大会開催前に大いに機運を盛り上げてくれたことは、参加したキワニス幹部に対して開催地への大きな親近感をもたらした。

(5) 日本地区が一丸となって取り組んだこと

全国のクラブから多数の参加者を得ることができた。またホスト・コミティーを多数のクラブで支え、周到的な準備を行うことが出来た。サブ・コミティーの準備と活躍も素晴らしく参加者の感動を呼んだ。当初の計画どおりオール・ジャパンでのおもてなし体制で世界各地からの参加者に対応した。

(6) マスコミが多数報道してくれたこと

広報関係者の尽力の結果、本大会のマスコミの報道は、広くかつ深いものがあつた。

放送では、NHK、千葉テレビ、TBS、新聞では、読売、日経、産経、東京、千葉日報、電気新聞、そして共同通信の配信もあり、埼玉新聞ほか地方紙に掲載、また、ジャパン・タイムスも大きな記事を報道した。

【東京・千葉大会に対するグンター・ガッサー前国際会長からの高い評価と感謝の言葉】

グンター・ガッサー前国際会長は、昨年10月初めのキワニス国際役員会に於ける会長報告の冒頭の部分で次の通り報告している。「東京・千葉での国際年次総会は大成功であった。出席者数も事前に期待したとおりであり、随所で行われた文化活動は世界各地から集まった多くのキワニアンがエンジョイする内容であった。特に日本地区のホスト・コミティーの対応は完璧であった。国際キワニスは、この努力に対して心から感謝をすべきである。秋篠宮同妃両殿下のご臨席とキワニスに対するお言葉は今回の大会のハイライトであった。今回の素晴らしい成果であり、今後国際年次総会は将来もかくあるべしという見本を示してくれたと思う。」



3日間の主な行事内容

3日間の主な行事内容は下記の通り。

7月17日(木)

8:20-8:30 日本体育大学チアリーダー部 (Vortex) による元気な演技で幕開け。

8:30-11:00 合同開会式



エリミネイト活動において小川ガバナーが **Governor of the Year 受賞**、キャロライン・ケネディ駐日米国大使のビデオ・メッセージの後、幕張総合高校シンフォニック・オーケストラ部が「オペラ座の怪人」を演奏して前半が終了。引き続き、秋篠宮同妃両殿下がご入場され開会式後半スタート、ガッサー会長の歓迎の辞、幕張総合高校合唱部による「君が代」斉唱、秋篠宮殿下の英語によるお言葉、森田健作千葉県知事並びに熊谷俊人千葉市長の英語によるご祝辞、グンター会長挨拶

椋、吉川久子氏フルート演奏（江戸子守歌、Memory）、幕張総合高校合唱部合唱（It's a Small World、Let It Go）、幕張総合高校シンフォニック・オーケストラ演奏（ラデツキ行進曲）と式が進行し、秋篠宮同妃両殿下が全員の拍手に送られご退場されて、開会式が終了。

11:30-13:00 エリミネイト・プロジェクト昼食会

ジョン・バトン次期会長による基調講演。日本地区が、会員一人当たりの募金額が世界第一位であることで、小川ガバナーと北里エリミネイト・コーディネーターが表彰された。



13:30-16:30 ASPAC 代議員総会



規約改正が議論され 3 つの規定が追加された。また、次年度の役員選挙で議長、次期議長、副議長など役員が選出された。更に、2014-2017 アジア太平洋地域国際理事選挙において日本地区の北里光司郎氏を国際理事に選出。2015年の大会がフィリピン、2016年の大会が台湾で開催されることが決まった。

16:45-17:45 ASPAC 合同役員会

新旧役員による引継ぎの役員会を開催。

17:00-19:00 KIF 受賞者祝賀会

日本地区からコネリー賞の巖俊氏、エリミネイトのメジャードナー4氏が表彰された。

18:30-21:30 ジャパンナイト（ASPAC と KIEF の為に）

日本地区主催による夕食会が開催された。ASPAC と KIEF のみならず世界のキワニアン 750 名の参加を得た。前半は海上自衛隊東京音楽隊によるブラスバンドの演奏と三宅由佳莉三等海曹によるソプラノのコンサート、後半は立食のパーティで、東京クラブの仲村渠千鶴子、ブレンダン・オサリバン両氏の巧みなバイリンガル司会で進行され、子ども達のヒップホップダンス、船橋湊町ばか面踊り、佐倉太鼓衆の和太鼓を楽しんだ。ばか面踊りには、多数のキワニアンが参加、大いに盛り上がった。



7月18日（金）

7:00-8:00 エリミネイト・ウォーク

早朝から約 300 名が参加。幕張メッセ国際会議場から幕張海浜公園の中を巡る約 1.6km をエリミネイト・プロジェクトの成功を訴えるバナーを先頭に皆元気よく歩き、すれ違う人たちにアピールした。実施に当たっては、会員、事務局員そして身延山高校のボランティアの協力を得た。NHK や千葉テレビなどの取材も受け、ニュース番組で放送された。

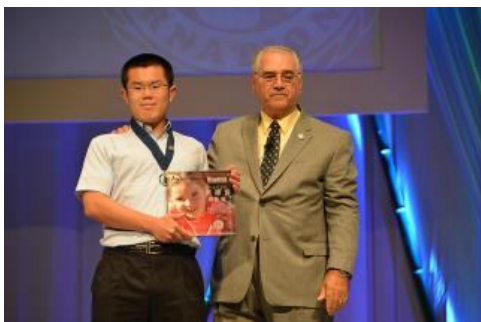


13:40-14:00 広島ジュニアマリンバアンサンブル

ASPAC 広島大会で好評だった子ども達のマリンバアンサンブルに再度登場してもらい、元気の良いパフォーマンスで参加者を魅了した。



14:00-18:30 国際代議員総会



最初に KIF の財務や活動の状況につ

いて KIF 会長から報告があった。英雄的行動に授与されるコネリー・メダルが、少年の人命救助を称えて中国の留学生厳俊氏に贈られた。

理事会が提案した 5 つの規約改正が決議された。引き続き行われた役員選挙で次年度の役員体制が決まった。会長にジョン・R・バトン氏、次期会長にスーザン・A・ペトリシン氏、副会長

にジェーン・M・エリクソン氏を選出。そのあと 5 人の国際理事が選出されたが内一人は ASPAC 年次総会で選出された日本地区の北里光司郎前ガバナーである。

17:30-18:30 山下泰裕八段の講話とちびっこ柔道の演技

子ども達の柔道の実技に続いて山下八段の講話があった。柔道は、子ども達の心身の発達に大きな役割を果たしうる、またグローバルな友好にも貢献して来たとお話であった。

19:00-22:00 国際友好晩餐会

カラオケとダンスを主体とした本部主催の夕食で 600 名を超える参加者があった。各国、各地域からの有志によるカラオケが次々と披露され、日本地区からもカラオケ自慢の会員が積極的にステージに上がり日頃の腕前を披露した。

また、中央のダンスフロアにおいて友好親善のダンスの輪を広げ、フェローシップの絆を深める会員も多かった。



7月19日(土)

9:00-11:00 合同閉会式



新旧役員の紹介から始まった。2013-2014 の優秀地区の表彰があり、日本地区も表彰された。国際サークル K 会長および国際キー・クラブ会長等の挨拶があった。エリミネイトで、10 万ドルの寄付を達成した 100K クラブとして東京クラブが表彰された。続いてワールド・サービス・メダルが、貧困国への民間主導の食糧援助に取り組むテーブル・フォー・ツー代表の小暮真久氏に授与された。ASPAC50 周年を記念したビデオが、小田議長と藤原会長の紹介で、披露された。幕張総合

高校ダンス部の若さ溢れるモダンダンスが披露された。そのあとダンサーの一人から英語で感動的な感謝の辞が述べられた。

最後に次期会長のジョン・バトン氏から、エリミネイトやフォーミュラ（成長戦略）に率先して取り組むという趣旨の力強い就任演説がなされ、3 日間の大会に幕が閉じられた。

14:00-15:30 ホスト・コミティー感謝の会

ガッサー会長、会長夫人、ソーダストロム専務理事が出席して感謝の会が開かれた。「素晴らしい年次総会であった。その成功はホスト・コミティーの皆さんが周到に準備してくれたお蔭」と感謝のことばが相次いだ。



その他会期中を通して開催されたイベント

(1) 情報センター・プログラム

本大会では従来のワークショップ形式でなく、成長戦略、エリミネイト・プロジェクト、100周年事業の3つのテーマについてセンター方式で情報の共有、意見の交換が図られた。



(2) ASPAC 地区フェア

ASPAC 地域の地区と日本地区の7ディビジョンと2ユース・グループが参加して、それぞれ特徴ある地域奉仕活動の展示、発表が行われ、参加者との交流が深まった。

(3) 日本文化フェア



各団体と幕張総合高校の協力を得て日本の伝統文化並びに武道に関するデモンストレーションを行い世界各国、各地からの参加者の理解を深めることが出来た。茶道、書道、華道、折り紙、着付け、香道、盆栽、柔道、剣道、空手を披露した。



(4) スパウズ・プロジェクト



ガッサー会長夫人の提案した「未来に架ける橋」をテーマにした子ども達の絵の展示即売も注目を集め、約14万円の売り上げがエリミネイトに寄付された。

秋篠宮殿下のお言葉

秋篠宮殿下には、開会式に於いて英語でお言葉をいただいた。その内容の日本語訳文は以下の通り。会場では、英語のお言葉が日本語、中国語、フランス語に同時通訳された。

グンター・ガッサー 国際キワニス会長

ご来賓各位、
ご列席の皆様、



本日、「第99回国際キワニス・第39回ASPAC合同年次総会」がここ千葉県幕張において開催され、皆様とともに出席できますことを大変嬉しく思います。また、1964年の東京キワニスクラブ及びマニラ・キワニスクラブの設立に始まるアジア太平洋地域におけるキワニス活動の50周年を心からお慶び申し上げます。

キワニスは、1915年に米国ミシガン州のデトロイトにて設立され、世界的な活動組織となりました。今や世界80の国と地域、約7,500のキワニスクラブにおいて活動が行なわれております。キワニスクラブの活動の神髄は、モットーである「世界の子供達に奉仕する」に専心することであり、重点策としての「まず子どもを第1に考えよう」に顕れております。国際キワニスが、将来に亘って次世代を担う子ども達に活動の優先度を付していることは誠に重要なことであると考えます。

この観点から、国際キワニスは、これまで「ヨード欠乏症撲滅」を事実上実現し、現在は「エリミネイト・プロジェクト」を実施しておられます。日本地区の活動としては、キワニス・ドールの製作と寄付、児童虐待防止、若者のボランティア活動への参加の奨励といった活動が含まれております。4年前に、ユニセフと協力して開始された、「エリミネイト・プロジェクト」においては、新生児の死亡率が高い妊産婦・新生児破傷風を撲滅するための活動が行なわれており、当初の対象国が40ヶ国であったのに比べて、現在では対象国を24ヶ国にまで減少させることに成功したと承知しております。世界の母親達と新生児達をこの病気から守るため、このエリミネイト活動がさらに展開をしていくことを願っております。

国際キワニスのグンター・ガッサー会長は、「子ども達の未来に向けて橋をかける」ことを提唱しておられます。モットーに掲げられておりますように、子ども達は世界の宝です。子ども達の未来に向けて橋をかけるために、世界中の会員とキワニスの協力者たちが力を合わせて奉仕活動を行うことは誠に意義深いことと思います。

キワニアン目的は、「ものより心を重んじる」、「規則を守って社会に尽くす」といった諸点であると伺っております。このような価値観は、日本の伝統的な価値観に通じるものがあります。その意味において、国際キワニス・ASPAC合同年次総会が、アジア太平洋地域におけるキワニス活動の50周年の節目に日本において初めて開催されることに大きな意義を感じます。

終わりに、このたびの総会が有意義なものとなるとともに、皆様が伝統芸能を始めとする日本の文化や自然に触れられ、世界中から集われた方々との友好の輪を広げられることを願っております。そして、「第99回国際キワニス・第39回ASPAC合同年次総会」が皆様の心に残る素晴らしい大会になりますことを祈念し、私の挨拶といたします。